

第七十三回帝國議會
衆議院

商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第二回

會議

昭和十三年三月三日(木曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長野村 嘉六君

理事西田 郁平君 理事仲井間宗一君

理事宮崎 一君 理事石坂 繁君

一松 定吉君 内藤 正剛君

田村 秀吉君 山本 条吉君

江原 三郎君 宮澤 清作君

金澤 正雄君 中野 治介君

崎山 嗣朝君 永山 忠則君

佐竹 晴記君 菊地養之輔君

由谷 義治君

三月一日委員立川平君及松尾孝之君辭任ニ

付其ノ補闕トシテ江原三郎君及金澤正雄君

ヲ議長ニ於テ選定セリ

同月三日理事立川平君ノ補闕トシテ木村作

次郎君理事ニ當選セリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣鹽野 季彦君

出席政府委員左ノ如シ

司法政務次官 久山 知之君

司法省民事局長 大森 洪太君
司法省刑事局長 松阪 廣政君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送

付)

商法中改正法律施行法案(政府提出、貴

族院送付)

有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

○野村委員長 ソレデハ開會致シマス、御

諮リ致スコトガアリマス、理事立川平君ハ

委員ヲ辭任セラレマシタノデ、理事ノ補闕

選舉ヲ行ハネバナリマセス、先例ニ依リマ

シテ委員長ニ於テ指名スルコトニ御異議ア

リマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○野村委員長 御異議ナイト認メマス、ソ

レデハ木村作次郎君ニ御願致シマス

○内藤委員 此際參考資料ヲ政府ヨリ御提

出ヲ願ヒマス、成ベク兩三日ノ中ニ御提出

ヲシテ戴キタイト思ヒマス、ソレハ過日豫

算總會ニ於テ、最近マデ官吏タリシ人デ退

官ノ後、ソレト特殊會社ノ重役ノ任ニ御

就キニナツタ方ガ多數アリマシテ、其統計表

ガ豫算委員會ニ提出サレテ居リマスカラ、

政府トシテハ御出シニナルノガ樂デアラウ

ト思ヒマス、ドウゾサウ云フコトニ御願致

シマス、尙ホモウ一ツ別ノ方面デ退官者ニ

シテ、内地デ言ヘバ高等官三等以上ニ匹敵ス

ル滿洲國ノ官吏ニ御就キニナリマシタ方ノ

氏名及ビ其人數ガ分レバ、出シテ戴キタイ

ト思ヒマス、ソレカラ第三ニハ出來得ルナ

ラバ、其人ノ俸給ヲ其上ニ現シテ戴キタイ

ト存ジマス、ソレハ過日モ本會議デ私ガ片

鱗ヲ申上ゲテ置キマシタガ、退職官吏ハ法

ノ定ムル所ニ依ッテ恩給ガ支給サレル、併シ

他ノ職務ニ就クコトニ依ッテ年收ガ可ナリ

多キナ金額ニ達シタ人ハ、恩給ノ金額ノ一

部ガ支給セラレヌト言ヒマスカ、低減サレ

ルコトニナツテ居リマス、ソレデ私ガ特ニ

此參考資料ヲ求メテ理由ハ、從來内地ノ官

吏ニシテ退官後滿洲國ニ行カレタ方ハ、滿

洲國ニ於テ相當大キナ金額ヲ支給ヲ受クル

モ、内地デハ所得稅ヲ課スルコトガアリマ

セヌ、ソレカラ昨年議會デ問題トナリマシ

テ、慥カ去年ノ八九月デアッタカモ知レマ

セヌガ、規則ガ變リマシテ、滿洲國デハ少

額ノ所得稅ヲ課シテ居ルコトニナツテ居リ

マスケレドモ、併シ内地ノ方ノ分ハドウナツ

テ居ルカ、一緒ニ課ケナイラシイノデ、是

モ變ダト思ヒマスカラ、ソレモ戴キタイト

思ヒマス、是ハ私共ノ考ヘ方ハ、商法ノ改正

案ニ關シテ、此間申上ゲマシタ如ク、取締

役ニシテ株式ヲ持タヌ者ガアッテ宜イカ悪

イカト云フ議論ニモ影響シマスノデ、參考

資料ニ提出ヲ御願致ス譯デアリマス、ソレ

カラ是ハ別ニ參考資料デアリマセヌガ、

將來問題トモナルト思ヒマスノデ、此際ニ

豫メ「ヒント」ヲ與ヘテ置イテ、政府ニ御研究

ヲ願ッテ置キタイト思フノデス、ソレハ有限

會社法案ニ付テ法ノ規定スル所、資本ハ比

較的ニ少イヤウデアリマス、若シ是ノ惡用

ニ依リマスルナラバ、例ヘバ同族會社ノヤ

ウナモノハ、利益ダケハ其會社ニ集中セシ

メテ、サウシテ餘リ利益ノ擧ラヌモノダケ

ハ、普通商法ノ規定ニ依ル會社ニスル傾モ

ナイトモ言ヘヌノデアリマシテ、扱ヒ方如

付託議案

商法中改正法律案(政府提出、貴族

院送付)

商法中改正法律施行法案(政府提

出、貴族院送付)

有限會社法案(政府提出、貴族院送

付)

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

何ニ依リマシテハ、資本家階級カ、何ト言ヒマスカ、利益ヲ壟斷セントスル傾キ、若クハ自分ノ身ヲ保護スルニ汲々タル餘リニ、良イ制度ヲ惡ク使ハヌトモ限リマセヌ、此事柄ヲ特ニ研究ラシテ見タイ、又其點ニ付テ質疑ラシテ見タイト思ヒマスノデ、今カラ御用意ヲ御願シテ置ク次第デアリマス、尙ホ議事進行デアリマスガ、速記ニ付テ委員長ニ希望致シマス、例ヘバ過日本會議ニ於テ私ガ大東土地會社ト申上ゲタノニ、速記録ヲ見マスト大同土地株式會社トナッテ居ル、斯ウ云フ文字ノ間違ヒガ起ル、瓶子ハ平氏ニ通ジ、醋麴ハ砂ニ通ズト云フコトハ日本外史デ習ヒマシタガ、サウ云フヤウナ間違ヒハ、何カノ機會ニ於テ訂正ラシナケレバナラスト思ヒマスノデ、ドウゾ委員長ニ於カレマシテハ今後議員ノ一舉手一投足——申上ゲル言葉デ間違ッタ事柄ニ付テハ、特別ナ御考慮ヲ煩ハシタイト云フコトヲ、議事進行ノ初メニ希望致シテ置キマス、問題ハドウナルカ分リマセスカラ、豫メ申上ゲテ置キマス

モ、或ハ御提出ガ極メテ早急ノ間ニ合ヒ兼ネルカモ知レナイノデアリマス、此點ハ豫メ御諒承ヲ願ッテ置キマス、ソレカラ第二ニ、有限會社ニ關シテ、今後ノ質疑應答ニ付テ豫メ御注意ヲ下サイマシテ、此點ハ御懇情ヲ多謝スル次第デアリマス、御指摘ノ點ニ付キマシテハ、私共立案ノ際ニモ之ヲ考慮致シマシテ、有限會社ノ濫用ト云フコトニ付テ、専ラ實際の見地ニ立チマシテ、之ヲ防止スル種々ノ措置ヲ講ジタノデアリマス、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ、尙ホ條文ニ就テ色々御審議モアリマセウカラ、其際ニ申述ベタイト存ズルノデアリマス

○野村委員長 只今委員長ニ對スル速記ノ正確ニ關スル御注意ニ付テハ、事務當局ニ十分申シテ置キマス

○山本委員 參考資料ノコトデスガ、昨年ノ商法改正ノ衆議院ノ委員會ニ於ケル意向ハ大體纏ッタクノデスカラ、アノ時ニ於ケル修正案ガアルノデスガ、ソレガ私ノ見ル所デハ參考資料ニ無イヤウデアリマスカラ、念ノ爲ニ若シオアリデシタラ、次回ノ委員會マデニ御提出願ヒタイト思ヒマス

ヨリ補足的ニ説明ヲ申上ゲタイト存ジテ居リマス、其際ニ昨年此委員會ニ於キマシテ問題ニナリマシタ點、及ビ其問題ニナリマシタ點ヲ私共ガ參酌シ、尊重ヲ致シマシテ多數ノ御意向ト思ハレマスモノヲ、此原案ニ出シタノデアリマス、ソレヲ口頭デ申述ベタイト存ジテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○野村委員長 提案ノ理由ヲ大臣ヨリ聽クコトニ致シタイト思ヒマス、ソコデ大臣ハ午前中ハ差支ガアルサウデアリマスカラ、本委員會ハ午後一時マデ休憩シテ、午後一時カラ開會スルコトニ致シタイト思ヒマス

○内藤委員 先程ノ參考資料ガ出ルヤウデアリマスカラ、出來レバ其方ノ普通ノ俸給額ト賞與額ヲ併セテ書イテ下サイマスマヤウニ、ソレハアル筈デアリマス

○野村委員長 ソレデハ午後一時マデ休憩致シマス

午前十時四十七分休憩
午後一時十九分開議

○野村委員長 ソレデハ是カラ開會ヲ致シマス——司法大臣

○鹽野國務大臣 只今議題ニナリマシタ三箇ノ法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先ヅ商法中改正法律案ノ制定ノ趣旨竝ニ經過ニ付キマシテハ、本會議ノ際ニ其概要ヲ申述ベタノデゴザイマスガ、現行商法ハ明治三十二年ノ制定ニ係リ、其施行後既ニ約四十年ヲ經過シテ居リマス、其間ニ明治四十四年ニ一部ノ改正ガ行ハレマシタガ、是ハ最少限度ノ補修ヲ加ヘタ程度ノモノデアリマシテ、要スルニ現行規定ハ全般ヲ通ジマシテ、現在ノ社會事情、殊ニ商事生活ノ實際ニ照シ、不備ノ廉ガ少ナイノデアリマス、殊ニ會社ニ關スル規定ニ至リマシテハ、特ニ缺點ガ多イノデアリマス、就中會社組織ニ依ル企業ガ日ニ月ニ盛トナリマシタニ拘ラズ、之ニ關スル法規ガ周到デナイ爲ニ、發起人、取締役等ノ責任其他重要ナル法律關係ガ、兎角明確ヲ缺キマシテ、多數ノ人々ノ權益ニ不安ヲ與ヘマシタコト、殊ニ會社ノ事業ガ蹉跌シマシタヤウナ場合、諸方面ニ廣ク測ラザル損害ヲ及ボシマシタコトハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘナカッタノデアリマス、仍テ政府ハ昭和四年内閣ニ法制審議會ヲ設置シテ、朝野ノ權威者三十餘名ヲ其委員ニ任命致シマシタ、其第一ノ事業トシテ商法全般ニ互ル改正要綱ヲ同審議會ニ諮問致シマシタル所、同審議會ハ實業界、法曹界、學界等、各方面ノ意見

ヲ微シマシテ、慎重ニ審議致シマシタ結果、昭和六年七月ニ先ヅ商法中急速ニ改正ヲ要シマスル第一編總則及第二編會社ノ二編ニ付キ、二百六項目ニ互ル周到ナル改正要綱ヲ決定シテ、政府ニ對シテ答申セラレタノデアリマス、政府ハ右改正要綱ヲ世間ニ公ニスルト共ニ、昭和七年十月司法省內ニ商法總則及ビ會社編改正調査委員會ヲ設ケ、改正法律案ノ立案ノ任ニ當ラシメマシタル所、同委員會ハ右改正要綱ヲ基礎トシテ、銳意審議立案致シマシタ結果、昭和十年十二月改正法律案ノ立案ヲ完了致シマシタ、而シテ政府ハ取敢ヘズ右法律案ヲ世間ニ公表シテ、之ニ對スル意見ヲ徵シ、其後右法律案ニ若干ノ修正ヲ加ヘマシタルモノヲ、去ル第七十回帝國議會ニ提案致シマシタル所、御承知ノ如ク貴族院ニ於テ一ノ修正ガアツテ可決セラレ、本院ノ委員會ニ於テモ慎重御審議ヲ重ネテ戴イタノデアリマスガ、御承知ノ如キ事情ニ依リ遂ニ成立ヲ見ルニ至ラナカッタ次第デアリマス、仍テ曩ニ提案致シマシタ法律案ニ、貴族院ニ於ケル修正其他一ノ修正ヲ加ヘマシタルモノヲ本案ト致シマシテ、今回茲ニ提案スルニ至ツタ次第デアリマス、前回提案ノモノト本案トノ異ル點ハ、前回ノ貴族院ノ修正ト本院ノ委

員會ニ於ケル多數ノ御意向トヲ尊重シテ、二三ノ修正ヲ加ヘテアルダケデアリマス 本案ハ商法第一編及ビ第二編、即チ商法中一部ノ改正ヲ目的トスルモノデアリマス、第四編ノ手形編ニ對シマシテハ、既ニ議會ノ協贊ヲ經マシテ、手形法及小切手法ノ制定ヲ見テ居リマス、又第三編商行為及ビ第五編海商ノ二編ニ對シマシテハ、昭和十一年ノ末ニ法制審議會ニ於キマシテ、改正要綱ガ決定セラレ、目下政府ニ於テ改正法律案ノ作成ニ付キ調査研究ヲ進メテ居ル次第デアリマス、右ノ如ク本案ハ商法中一部ノ改正ヲ目的トスルモノデアリマスガ、其內容ハ商法第一編及ビ第三編ニ對シ、殆ド全般的ノ改正ヲ企テタモノデアリマシテ、改正ヲ加ヘマシタ點ハ相當多數ニ上ツテ居リマス、今比較重要ト認メラレルモノヲ列舉致シテ見マスルト、第一編總則編ニ付キマシテハ、商號ニ關スル規定ヲ補充シマシタ點、營業讓渡ノ場合ノ權利關係、殊ニ營業讓受人ノ責任ニ付キ新ナ規定ヲ設ケマシタ點等デアリマシテ、第二編會社編ニ付キマシテハ、會社全般ニ關シテ、會社ハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ依リ、成立スルモノトシマシタ點、會社ノ繼續ヲ廣ク認メマシタ點、會社ノ合併無効ノ訴ノ制度

ヲ創設シマシタ點、會社ノ設立無効ノ訴ニ關スル規定ヲ改正シマシタ點、罰則ニ付キ全般的改正ヲ加ヘマシタ點、合名會社及ビ合資會社ニ關シマシテハ、社員ノ責任ヲ明確ニシマシタ點、株式會社ニ關シマシテハ、定款ハ公證人ノ認證ヲ受クベキモノトシマシタ點、現物出資ト同視スベキ、所謂財産引受及ビ事後設立ニ付キ規定ヲ新ニ設ケマシタ點、募集設立ノ場合ニ於テモ、一定ノ事項ニ付キ、裁判所ノ選任シタル検査役ノ検査ヲ受クベキモノトシマシタ點、所謂預合ニ關シ適當ナル禁止規定ヲ設ケマシタ點、記名株式ニ付キ裏書讓渡ノ制度ヲ設ケマシタ點、優先株、後配株等種類ヲ異ニスル株式ノ發行ヲ認メ、且ツ會社設立ノ場合ニ於テモ之ヲ發行シ得ルモノトシマシタ點、株主總會ノ決議取消ノ訴ニ關スル規定ヲ改メ、且ツ決議無効ノ確認ノ訴ニ關シ、規定ヲ新ニ設ケマシタ點、株主總會ノ特別決議ヲ必要トスル事項ヲ明確ニシマシタ點、取締役又ハ監査役ハ、定款ニ別段ノ規定ナキ限り、株主中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要シナイモノトシマシタ點、少數株主權ノ行使ニ付キ、若干ノ制限ヲ加ヘマシタ點、社債ニ關スル規定ニ重要ナ補修ヲ加ヘ、且ツ社債權者集會ノ制度ヲ新設シマシタ點、資

本増加ニ關スル規定ニ重要ナル改正ヲ加ヘマシタ點、各種株式ノ相互ノ轉換ヲ認ムルト共ニ、株式ニ轉換シ得ル社債ノ發行ヲモ認メマシタ點、資本ノ増加又ハ減少ノ無効ノ訴ニ關シ、規定ヲ新ニ設ケマシタ點、會社ノ整理ノ制度ヲ新ニ設ケマシタ點、合併ニ關スル規定ニ必要ナ補修ヲ加ヘマシタ點、特別清算ノ制度ヲ新ニ設ケマシタ點等デアリマス、尙ホ商法中改正法律施行法案ハ、商法ノ改正ニ伴ヒ新舊法ノ調和ヲ圖ル爲メ、其他施行上必要ナル事項ヲ規定致シタモノデアリマス、以上ノ外詳細ノ點ニ付キマシテハ、必要ニ應ジマシテ、政府委員ヨリ十分ニ説明ヲ致サセル積リデアリマス、尙ホ本法改正案ハ、現行法ニ對シ相當重要ナ改正ヲ加フルモノデアリマスノデ、幸ニ御協贊ヲ得テ公布セラレマシタ場合ニ於テハ、公布後或ル期間其施行準備ニ充テ、ソレカラ實施致シタイト考ヘテ居リマス、本會議ノ際ニモ申上ゲタ所デゴザイマスガ、今回ノ事變ニ關聯シ、國民經濟ノ運行ヲ確保スルノ必要ガ、日ニ日ニ其度ヲ加ヘツ、アルコトハ、申ス迄モナイ所デアリマス、隨テ本案ニ於ケルガ如キ會社制度ノ堅實ヲ圖ル爲メ新方策ヲ立テマスルコトハ、今日ニ於テ愈々急務トナツテ參ツタノデ

アリマス

次ニ有限會社法案ノ提案理由ヲ申上ゲタ
イト存ジマス、本案制定ノ趣旨ニ付キマシ
テハ、本會議ノ際ニ極メテ簡單ニ其概要ヲ
申述ベタノデゴザイマスガ、我方商法ニ於
キマシテハ、御承知ノ如ク、合名會社、合
資會社、株式會社及ビ株式合資會社ノ四種
類ノ會社ヲ認メテ居リマシテ、各會社共ソ
レゾレ其特色ヲ有シテ居ルノデアリマスル
ガ、就中最モ重要ナ活動ヲ致シテ居リマス
ノハ株式會社デアリマシテ、當委員會ニ
於テ御審議ヲ願ッテ居リマスル商法中改正
法律案ニ於テモ、努力ヲ株式會社ノ法規ニ
集中シテ居ル次第デアリマス、御承知ノ如
ク株式會社ヲ組織シマスル社員、即チ株主
ノ責任ガ有限ニナッテ居リマスコトガ、企業
組織トシテ歡迎セラレルノデアリマスガ、
通例株式會社ノ株主ノ數ハ、甚ダ多イノデ
アリマシテ、或ル株主ト他ノ株主トノ間ニ
聯絡ノナイノガ普通デアリマスルシ、又廣
ク株式ノ賣買ガ行ハレマシテ、株主ノ異動
ハ常ニ生ジテ居ルノデアリマス、然ルニ株
式會社ノ株主ト同ジク有限責任デアリマ
スルケレドモ、相互ニ信賴關係ノ篤イ少數
者ニ依ッテノミ組織スル特殊ノ法人モ、亦營
業ニ甚ダ適當ナ形態デアリマシテ、御承知

ノ如ク英國ニ於テ先ヅ發達シ、獨佛等ノ諸
國モ既ニ之ヲ是認シテ居ルノデアリマス、
我國ニ於キマシテモ、實業界ニ於テ大分以
前カラ其要望ガ強クナッテ居タノデアリマ
シテ、昭和六年七月法制審議會ハ、商法改
正要綱ノ諮問ニ對スル答申ノ一項目トシテ
「外國法上ノ有限責任會社又ハ英國法上ノ
私會社ニ該當スル特別ノ會社ヲ認メ之ニ付
キ特別法ヲ以テ規定ヲ設クルコト」ヲ明カ
ニセラレタノデアリマス、之ニ基キマシテ司
法省內ノ商法總則及ビ會社編改正調査委員
會ニ於キマシテ、商法中改正法律案ニ引續キ、
有限會社法案ノ立案審議ヲ進メ、今回玆ニ
同法案ヲ提出スルノ運びニ至リタ次第デアリ
マス、本案ハ第一章總則、第二章設立、第三
章社員ノ權利義務、第四章會社ノ管理、第
五章定款ノ變更、第六章合併及組織變更、
第七章解散、第八章外國會社、第九章罰則、
第十章雜則ニ分レ、八十九箇條ヨリ成ッテ居
リマス、今本案ノ骨子トモ申スベキ要點ヲ
列舉致シテ見マスルト
一、有限會社ハ其目的ヲ商法上ノ會社ト
全ク同一ト致シマシタコト
二、社員ノ責任ハ其出資ノ金額ヲ限度ト
致シマシタコト
三、社員ノ數ノ最大限度ヲ原則トシテ五

十八ト致シマシタコト
四、資本ノ總額ノ最大限度ハ別ニ制限致
シマセヌガ、其最大限度ヲ一萬圓ト致
シマシタコト
五、社員ノ持分ハ出資口數ニ分割スルモ
ノトシ、出資一口ノ金額ヲ百圓以上ト
致シマシタコト
六、持分ノ讓渡ニハ社員總會ノ特別決議
ヲ要スルモノトシ、社員相互間ノ讓渡
ニ付テハ、定款ヲ以テ其制限ヲ緩和ス
ルコトヲ得ルモノト致シマシタコト
七、設立ノ際ニ必ズ出資全額ノ拂込ヲ爲
スモノトシ、拂込未済ノ分ニ付テハ會
社成立當時ノ取締役、監査役及社員ガ
連帶シテ拂込ノ責ニ任ズルモノト致シ
マシタコト
八、現物出資又ハ財産引受ニ付其財産ノ
評價ガ不當ナル場合ニハ會社成立當時
ノ社員ガ連帶シテ責任ヲ負フモノト致
シマシタコト
九、資本増加ノ場合ニモ右ニ述ベタ所ト
同趣旨ノ規定ヲ設ケマシタコト
十、業務ノ執行ハ取締役ヲシテ之ニ當ラ
シムルコトト致シマシタガ、監査役ヲ
置クト否トハ任意トシ、定款ノ定ムル
所ニ依ルモノト致シマシタコト

十一、社員總會ニ付書面ニ依ル決議ヲ認
メ其他多クノ事項ヲ會社ノ自治ニ委セ
マシタコト
十二、少數社員ノ權利ヲ認メマシタコト
十三、有限會社ト他ノ有限會社又ハ株式
會社トノ合併ヲ認メマシタコト
十四、株式會社ハ其組織ヲ變更シテ有限
會社ト爲スコトヲ得ルモノトシ有限會
社ハ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲ス
コトヲ得ルモノト致シマシタコト
十五、貸借對照表ノ公告ハ之ヲ強制セザ
ルモノト致シマシタコト
十六、社債ノ募集ハ之ヲ認メザルモノト
致シマシタコト
等デアリマス
其他詳細ノ點ニ付キマシテハ必要ニ應ジマ
シテ、政府委員ヨリ十分ニ説明ヲ致サセル
積リデアリマスガ、要スルニ先程申述ベマ
シタ特殊ノ營業組織ヲ是認シテ、之ニ適應
スル法規ヲ網羅シタモノデアリマシテ、國民
經濟ノ發達ノ爲ニ大イニ裨益スルコトガ出
來ヨウト存ズル次第デアリマス、今回ノ事
變ニ關聯シ、國民經濟ノ健全ナル運行ヲ確
保スル必要ガ日ニ日ニ其度ヲ加ヘツ、アル
コトハ申スマデモナイ所デアリマスシ、事

變後ノ事態ニ備ヘマスル爲ニ、商法中改正
法律案ト相俟ツテ、會社關係法規ノ完備ヲ期
スルコトハ、今日ニ於テ全ク焦眉ノ急務ト
ナツテ參ツタノデアリマス、何卒十分ニ御審
査下サレ、此法案ノ通過ニ御盡力アランコ
トラ切望致ス次第デアリマス

○野村委員長 本日ハ此程度デ散會致シマ
ス、明日ハ午前十時カラ開會致シマス

午後一時四十分散會

昭和十三年三月三日印刷

昭和十三年三月四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局